

ニュースレター「ブーケ」

Bouquet

Vol. 2
News Letter

2014.11



特集

社会で羽ばたく人材へ

突撃! 学生インタビュー(第1回・NTT研究開発センター)	02
活動報告「PBTS最先端機器研究室ローテーション」	04
Activity Report(英国訪問レポート)	05
Study Commons(スタディ・commons) 教員・履修生の紹介	06
エッセイ——「PBTS」によせて	07
花子の日記	07
Information	08



社会で羽ばたく人材へ —— 突撃！学生インタビュー ——

この企画は、グローバル理工学副専攻の大学院学生が、自分たちの将来のモデル像として、企業等で活躍している理系の女性リーダーにインタビューし、研究・仕事・家庭などについて語っていただくというものです。神奈川県にあるNTTの研究開発センタという大きな研究所を訪見し、保井孝子主任研究員にお話をうかがいました。



保井 孝子さんプロフィール

早稲田大学理工学研究科材料工学専攻修士課程を修了後、日本電信電話株式会社（NTT）入社。高速大容量光通信実現のための光半導体素子などの多数の研究開発にたずさわ。現在はデバイスイノベーションセンタに所属。また、J-Win* 技術系分科会の幹事役もつとめる。

*J-Win 企業におけるダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援することを目的に2007年に設立されたNPO法人。会員企業数101社。グローバルリーダー分科会、上司と創るダイバーシティ分科会など10の分科会がある。技術系分科会は技術系の職についている会員で構成。

研究と社会の橋渡し

— はじめまして。今日はよろしくお願ひします。早速ですが、今のお仕事はどのようなことをされていますか？

NTTで研究開発したものを事業会社や市場に入れていくことをやっています。一般的に日本の研究開発は素晴らしいと優れているのですが、世の中に出していくのが苦手です。ですから特許はたくさんあっても、ビジネスにつながらないことが多いです。私の仕事は会社の研究成果を社会へとつなぐ橋渡しをしています。

— 研究者になりたいと思ったきっかけについて教えてください。

私の両親が理系の研究者でしたので、研究という仕事が身近だったということがあります。あとは理論的に物事を考えることが好きだったので、自然と研究者志向になりました。

— 材料工学がご専攻でいらっしゃいますね。それは、今のお仕事のような、出口に近い（産業に近い）分野としてご関心があったのでしょうか？

いえ、私はどちらかというと工学の中でも、ものをつくるというより基礎研究に近い、結晶構造を見て解析する研究室に入りました。当時私は研究が好きだったので、人にものを売る事や、人とコミュニケーションをしながら仕事をするということについて、イメージが浮かびませんでした。

— それでは仕事をしていくうちに、もうちょっと社会と接点のあるところで仕事をしたいと思われたのですか？

そうですね。自分で異動を希望しました。いったん研究から離れてみて、自分のいた場所を見つめ直す機会が必要かなと思いました。もう10年以上研究をしていましたので。

チームワークの大切さ

— 社会人となって学生時代と大きく違うと思ったところはどこでしょうか？

研究がただ楽しいだけの自己満足ではなくて、みんなが喜んでくれるためにはどんなことをしたらよいのだろうと考えたことです。また、人の手を伝って研究されたものが市場に出るとい、研究する側としての責任感です。

— 私達はチームを作り共同研究をしています。チームで仕事（研究）をするときに大切な事はどこでしょうか？

私は、事業会社の方とワーキンググループを作ってそのリーダーをした経験があります。その経験の話をする『みんなの意見を引き出す』ということです。皆、それぞれが大事な情報を持っているかもしれないので、それを引き出してテーブルの上に乗せないと、全体像が見えません。あとは、誰が何を得意としているのか、メンバーの特長を理解して、それに合わせて担当をお願いすると皆さん生き生きとされるのです。J-Winでもそうです。メンバーはいろいろな会社の方ですので、見ているものや世界が違います。その中で、他人の意見を否定しない、尊重するというのは基本です。

— J-Winでは様々な背景を持った方々が集まるとのことですが、話し合いをするのは大変ですか？

楽しいですよ！何しろ、女性でしかも理系分野ですと、社会ではマイナーな人種になってしまうのでお話をする機会がほとんどありませんから。分野は違っても感覚が同じだなとか、自分が知らない見方があるな、とか刺激になります。

物事を柔軟に受け入れられる力を持つ

— 社会に出る前に経験しておいたほうがいい事はありますか？

理系なので、理論的思考能力をつけておいた方がいいと思います。あとは集中力かな。やはり研究するのであれば、研究に没頭すること。それから、是非皆さんがやったらいいかなと思うのは、物事を柔軟に受け入れられる力を養うということです。今は世の中の動きが早くて、進化し続けています。昨日まで決まっていた方針が、世の中の流れが変わって、その状況に応じなければならなかったりしても、それを許容できる柔軟性を身につけておいた方がいいと思います。私はできなかったのですが、会社に入ってから苦労しましたね。

— 物事を柔軟に受け入れるとは、自分はこうだ、と思っているものを「ちょっと待てよ」と思い直すことでしょうか？

それも必要ですが、私は自分の意見や想いを持つことは非常に大切と思っています。けれど



も、その想いを実現するとかやり通すためには、自分だけの力では絶対に無理なので、他人から「こうじゃない？」と言われて聞き入れる、受け止める、こういうのもありだ、と考えてみる。実は自分の視野というのは、すごく狭いものなので、視野を広げるためには違うなと思って、他人の意見を聞いてみて、それに乗っかってみて、足し算をしていくことも大事です。私の場合、J-Winがその大きなきっかけ

になりました。時として過去の自分を全部否定するような感じで、受け入れるのはすごく大変だったのですが、年を取れば取るほど、自分の軸を変えるときは衝撃は大きいので、若いうちに柔軟性を養っておくということが大切だと思います。

— そうですね、実際に実践するのは難しそうですが、柔軟でいようと頭に置いておけば、仲間と衝突だけにならずにすむかもしれません。

私はたとえばチームが自分と違う方向に動いたなと思ったときに、あえてちょっと放っておくと、何か見えてくるかもしれないと思いますね。一歩離れて見てみる、時間を置く、距離を置くのもいいかもしれないと、最近では思っています。

オンとオフ、どちらも大事な人生

— 保井さんは、ワークライフバランスをどのようにとられていますか？

オンとオフの切り替えは、あまり得意ではない方と思っています。でもワークとライフが両方あってよかったと思う瞬間があります。どうしたことかという、たとえば実験していても、子どもがいるので、6時とかに切り上げなければいけない。何をやってもだめだ、うまく行かないというときに、子どもがいなければ、夜までずっと試行錯誤を続けられるでしょう。でも、切り上げて家に帰ってご飯をつくっているとき…無心にタマネギのみじん切りなどをしているときに「あ、こういうことをやってみたら、うまく行くかもしれないから、明日はやってみようかな」みたいに新しい発想がふと生まれたりするのです。そういう意味で、何か追究しているときに、それを追究し続けるのは大事ですが、あえて環境を変えてみたり、いったん考えを止めて、場所を変えて違った視点で考えたときに、違う発想が生まれてきたりするのです、それはとてもよかったかなと思います。

— 保井さんは介護のご経験もありますね。育児とは違いますか？

はい、そのときは父親と過ごす時間を優先しました。論文を夜中に書く



女性研究者の方々と一緒に記念撮影

J-Win W-STEM Networking Conference 2014 一緒に語ろう！リケジョの未来

11月15日（土）に内閣府、男女共同参画推進連携会議とNPO法人J-Winが主催する日本の女性技術者の交流とネットワーク構築を目的のイベントです。詳しくは、<http://www.e-toroku.jp/wstem2014/> をご覧ください。

※ W-STEMとは、W = Women, Science, Technology, Engineering, Mathematicsそれぞれの頭文字です。

というのやりませんでしたし、長い実験ができなかったりしましたが、自分自身の中で優先順位を守りながら、研究は細く長くつなげていきました。

— 育児・介護休暇をきちんと取り、仕事を続けられることが一般の社会の仕組みになってほしいと思います。

なと思います。でも、職場の周りの方とはきちんとコミュニケーションをとる事が重要です。周りの人がその分、仕事をする事になる可能性があるので、そこでどう振る舞うかで女性自身の評価にもかかわってくるかもしれないですね。

セルフブランドを確立する

— 保井さんと同じように企業で研究をしたいと思っている大学院生にメッセージをお願いします。

専門に特化することが強みになる、セルフブランドになると思います。でも、それが強すぎて他を受け入れないと、それしかできない人になってしまいます。セルフブランドを確立しながら、世の中で必要とされていることに対応できる人になれば、とても素晴らしいと思います。

— 11月15日に本学でJ-Win W-STEM Networking Conferenceのイベントが開催されます（ページ下部参照）。保井さんも参加されるお聞きしました。

以前J-Winの研修で、アメリカの研究所やSWE(Society of Women Engineer) Conferenceを視察したのですが、企業と学生と女性技術者を結ぶネットワークがとてもガッチリしているのに驚きました。日本でもそのような機会があるといいなと思いました。今回のイベントでは、まずはネットワーク作りをして、それが将来的にどんどん広がる事を期待しています。

— 最後に現役の女性リーダーとして、私たちにアドバイスをお願いします。

仲間や支えてくれる人とのコミュニケーションを大切にしてください。J-Winで、仕事で悩んでいるときや失敗したときに、具体的に言わなくても、励まし合える仲間と出会いました。J-Winの仲間や先輩方の縁を私は大切にしています。

— 本日は貴重なお話をありがとうございました。J-Win W-STEM Networking Conferenceでお会いしたいです。

はい、ワークショップを行いますので、ぜひ遊びにいらしてくださいね。



インタビュー終了後、保井さんと同じ研究所で働く女性研究員の方々にもお話をうかがいました。また、研究所内にある実験施設も見学する貴重な機会をいただきました。

学生から一言

水戸晶子「専門を極めることは、自分のブランドを作ることという考え方にハッとさせられました」
榎吉奏子「これまで企業で働くことのイメージがわかなかったのですが、今日のお話を聞いてとても身近に感じる事ができました」

PBTS 最先端機器研究室 ローテーションが行われました！

PBTS (Project Based Team Study) 先端機器研究室ローテーションとは、異分野の先端機器を用いた「実学講義」で、学生の学際的視野を広げるといふ本プログラムの特徴の一つにあたります。履修生数名を1チームとし、6月から9月に渡り、5つのコースワーク(生物、ものづくり、食物・環境物質測定、物質の構造と相互作用、物理(無機物性))を体験し、学習する実習を行いました。

【1】生物コース (48コマ・90分/コマ)

【目標】 ライフサイエンスをささえる技術は、飛躍的に発展し続けている。異分野専攻の学生に、最先端のライフサイエンス技術と、異分野が融合することで実現した技術を体験してもらい、異分野統合による新たな発展と将来への飛躍を目指す。



◆ 実験レポート (履修生コメント) ◆

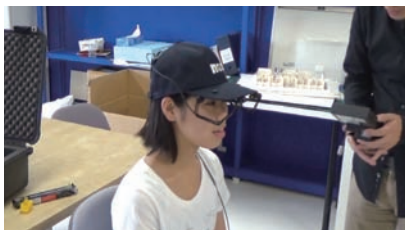
生物の由良先生によるプログラミングの講義では、プライマーを設計するスクリプトを作成し、実際にプライマーを作成しました。すでにウェブ上にあるスクリプトでもプライマーを作成してみ、PCR* でどちらのほうがPCRの効率が良いか実習で比較しました。その結果、なんと既存のものより私たちが作成したスクリプトのほうが良いことがわかり、嬉しかったです！

* PCR (Polymerase Chain Reaction) とは DNA ポリメラーゼを用いて連鎖反的に DNA を増幅する方法。

【2】ものづくりコース (48コマ・90分/コマ)

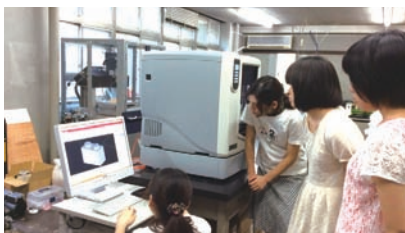
(1) 眼球運動計測装置 コースワーク

【目標】 眼球運動計測装置の原理と基本的な使い方を学び、装置の着脱とデータの取得、ならびに簡単なデータ解析まで行うことができるようにする。



(2) 工作機器システム (3Dプリンタ&NCフライス盤) コースワーク

【目標】 理工系グローバルリーダーに求められる資質のひとつは、強力なクリエイティビティであり、優れたオリジナリティを外部に見える形で発信する能力が重要である。アイデアの製品化は勿論のこと、新たな研究手法を可能とするオリジナルな実験装置を作成することは、即イノベーションの強化につながる。コースワークでは製作実習を通じて物作りを体験学習する。



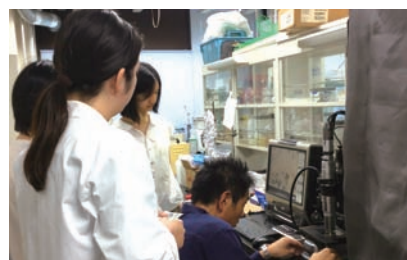
(3) ヒューマノイドロボット コースワーク

【目標】 物体を認識し、追跡などをする技術がどのようなメカニズムで構築され応用技術として可能となっているかを理解・学習する。



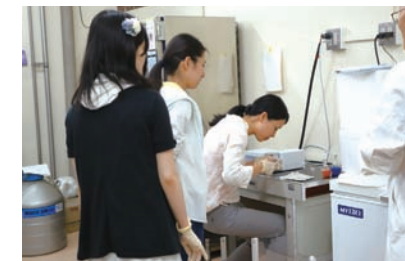
【3】食物・環境物質測定コース (64コマ・90分/コマ)

【目標】 食品、栄養科学、環境科学研究を推進する上で、それら対象に含まれている物質を検出・測定することは重要であり、その物質の性質の違いを利用した測定方法や、微量でも測定できる高感度な装置を使いこなせることは研究の基礎となる。本コースでは、食物科学および、環境科学を対象とした試料を用いて、その解析方法の理論と実践を習得する。



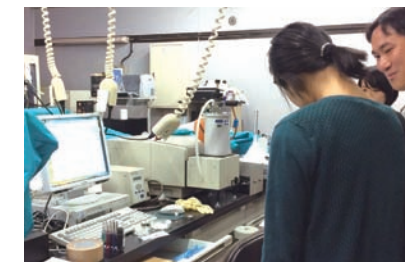
【4】物質の構造と相互作用コース (64コマ・90分/コマ)

【目標】 自然界を構成する様々な物質と基本的性質、ならびに物質間相互作用の解析方法を理解することを目標とする。物質を取り扱う様々な研究において重要な、精密秤量、構造による分離・精製、熱的、光学的性質の測定、生体高分子間の相互作用解析を行う。実験と解析により、物質の持つ性質と機能を利用した新規な着想に至るための基本的な考え方を学習する。



【5】物理(無機物性)コース (64コマ・90分/コマ)

【目標】 物質の成り立ち、研究用試料の作製法を理解した後、①その評価法としての結晶の原子の周期的配列の観測、②蛍光スペクトル測定、③磁気特性測定について、それぞれ解説および hands-on 実習を実施、無機材料系研究の基礎的流れを理解・体得させる。



Activity Report

～英国訪問レポート～



オックスフォード大学

オックスフォード大学の理学部門を訪れ、学生派遣の可能性を検討しました。ここは750年の歴史を持ち、世界から最先端の研究を行う研究者が行きかう学問のパラダイスです。学生の生活の場となっているカレッジ制度は、初めての海外生活をしっかりサポートしてくれます。インターン受入先の候補地も視察しました。

バース大学

バース大学は、世界遺産に指定されている歴史ある街・バースにある、英国内でも評価の高い大学です。化学科では、リーディングと非常に似た Doctoral Training Center が設置され、化学・ビジネス・特許・アウトリーチを組み合わせた教育と、持続可能な化学というテーマで研究が行われています。地元のイギリス人たちが大学関係者も非常に親切で、初めて海外に行く学生にはとてもよい環境といえます。



英国海洋生物研究所

英国海洋生物研究所は、チャールズ・ダーウィンがチャレンジャー号の航海に出たイギリスの街・プリマスに位置し、100年以上の歴史を持つ英国でも最も歴史ある海洋研究所で、当初は水族館としての水槽室と研究室からなるチャリティ組織として発足しました。現在でも天然海水を使った大規模な水槽室が活用され、物理・情報科学を駆使した動物行動学やモニタリング、温暖化問題を意識した生態学や細胞生物学の研究が行われています。



Md. Khayrul Bashar 先生

モハメド・カイルル バシャー | バングラデシュ出身
特任准教授
情報科学 (画像解析)

科学に興味を持ち始めたきっかけは？

中学生の時、宇宙や自然界の美しさを科学者が見だしていることに興味を持ち、理系の学校に進学しました。

実り豊かなバングラデシュの町

私の故郷はバングラデシュのカンチャナというチッタゴン市 (バングラデシュ第2都市) から33kmほど南にあります。町の東側には山脈が連なって様々な果物の栽培が盛んで、特にグアハが有名です。他にもジャックフルーツ、マンゴー、レモン、ザクロ、パパイヤ、ライチ、バナナなどがあります。小中学生の頃は、スポーツが好きで、地元のサッカーチームに所属していました。水泳、釣り、ボートレース、闘牛観戦なども楽しみました。バングラデシュは米、魚、肉、野菜、レンズ豆が主食で、特別な日のメニューとしては、米をグローブやカルダモンなどの香辛料で炊き上げた「ビリヤニ」、お正月料理「パンタ・イリシュ」(イリシュは国魚)、デザートには「ドイ」(ミルクを甘く煮詰めて作ったヨーグルト)があります。高校を卒業後は、インドのムンバイにて進学するため、故郷を離れました。



高校時代の本人 (中央・上)



Simon John Devitt 先生

サイモン・ジョン デビット | オーストラリア出身
特任講師
量子物理学

科学に興味を持ち始めたきっかけは？

14歳の時、映画『バック・トゥー・ザ・フューチャー』を観て自分も時間旅行が出来る科学者になりたいと…それには、物理学を勉強することだと思いました。

古き良きオーストラリアの町

私の故郷、ベンディゴはオーストラリアのメルボルンから200km北にある、人口8万人ほどの町です。初期のオーストラリア史では、この町は金の産地でした。そのためゴールドラッシュで移民として入ってきた中国系の人口が今も多く、食文化は中国の影響を受けています。町には多くの19世紀から20世紀にかけて建てられた、イギリスビクトリア朝の建造物があります。現在は、現代的な劇場やギャラリー、美術館も建ち、コスモポリタンの集う新しい町へと変わりました。地元の人にとってスポーツは人生の一部となっています。週末はオーストラリアサッカーやクリケット観戦に熱中します。現在は、私の両親や家族も町から離れてメルボルンなどに住んでいます。



履修生紹介

理学専攻 情報科学コース 江里口 瑛子



主専攻では、コンピュータを利用したデータ解析を行っています。私たち人間が行っている認識・理解・推論を、コンピュータ上でどのように実現するかという課題に取り組んでいます。

PBTSでは、異なる専門背景から生まれる多様性を強みに、社会の実問題に対する新たな取り組みや解決策を模索していきたいと考えています。

ライフサイエンス専攻 人間・環境科学コース 西田 かつり



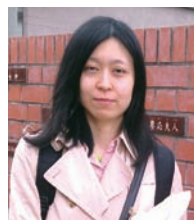
私は環境工学を専門として、現在は用途毎の生活用水使用量の調査とそのメーターの作成をテーマに研究しています。この副プログラムでは、本専攻とは別に様々な分野の授業を受講しながら、PBTSワークを行っており、英語でのコミュニケーション等の困難もありますが、先生方やリーディングセンターの方々、他の履修生に助けをもらい活動しており、大きな充実感を感じています。このような貴重な機会を活かし、分野の枠を超えた視野を身につけていきたいと考えています。

ライフサイエンス専攻 生命科学コース 田村 りつ子



私は生物学を専門とし、現在はイトマキヒトデ未受精卵のプログラム細胞死の機構について研究しています。副専攻プログラムでは、他分野の仲間たちと学び、議論し、切磋琢磨しています。このプログラムでなければ絶対に体験することのできない、貴重で有意義な日々です。慣れない英語でのコミュニケーションや自分のバックグラウンドとは異なる分野の研究は簡単なものではないですが、明るい未来に向かって日々前進しています。

理学専攻 物理科学コース 山下 公子



素粒子物理学を専門としています。素粒子はこれ以上、分割して考える事ができない基本的な粒子の事です。これらの素粒子の反応過程を実際にシミュレーション・解析をして、研究を進めています。「博士過程教育リーディングプログラム」では、異分野のメンバー同士でテーマを決め研究を行います。研究が本格化する過程で、専門というバックグラウンドが違うそれぞれの分野のメンバーより、どういった視点の意見を頂けるのか、とても興味があり意見交換が楽しみです。

Essay

プログラム担当者によるリレーエッセイ

「PBTS」によせて

太田 裕治 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授・ライフサイエンス専攻長)



学生時代から医用工学という分野の研究を専門にし、かれこれ30年経ちました。当時は、人工臓器や手術ロボットの研究開発をしていましたので、大学と医局と工場とが私の棲みかとなっていました。大学の専攻は工学(精密機械)でしたので、当然ロボットや小さい機械の勉強が主となります。ところが、医療機器の研究には工学だけでは不十分であることが分かったのです。この領域は医学とたいへん密接に関わっており、工学専攻内のみでは研究はまともませんでした。そこで自ずと関連する様々な研究室に出掛けるようになりました。手始めに農学部において動物の手術を習いました。その後、病院において肝臓治療のグループに加わったり、免疫学教室や化学センサのラボにも出入りしました。免疫学教室の若い講師の先生にはかなり厳しくしごかれましたし、化学センサの先生にはだいぶ馳走して頂きました。若かったこともありフットワークも軽く、随分と、あちこちで忙していました。今思うと、このときの経験の意味は、実質的には、今で言う研究室ローテーションをすでにしていたのです。当時のこのような経緯を経て、現在では医用工学という分野が確立し、多くの人々に認知されて参りました。今でこそ科研費の分野が確立していますが、当時はキーワードもなく、機械工学ロボットとか医学外

科学とかに出しておりましたことを考えると隔世の感があります。研究の進め方を考えるに際して、モード論という考え方があります。特定のディシプリン(教条)を研究仲間と一層深めて行く、インターディシプリナリを実践するモード1。境界学問領域を、異なる分野の研究者たちとトランスディシプリナリに考えてゆくモード2。上で述べたような人工臓器の研究の軌跡は、このモード2のやり方を手探りでたどっていたとも言えると思います。モード2の考え方は昨今、国際競争力を高める目的で、課題解決やイノベーションの名のもとに盛んになりつつある実態があります。しかし、必ずしもモード1が2にとって代わるというのではなく、その重要性が減じるものでもありません。研究のタイプとして、シーズ志向とニーズ志向の違いであると理解しています。リーディングのみなさんは、その意味を十分理解し、両方のアプローチから研究を進めることが可能です。例えば主専攻においては、自分の基礎となる分野をモード1的に研究し、PBTSにおいては、関心の幅を広げてテーマを設定し、モード2的な研究を、というように、双方のアプローチから頑張っていたかと思えます。(モード論については、マイケル・ギボンズを参照下さい)



助手時代の本人 (左)

履修生のまいにち
花子の日記
第2回



9月〇日 くもり

今日はPBTSのチームミーティングがある。というのも10月から始まるPBTSに向けて、現在、研究課題を模索中なのだ。

私たちのチームでは、まず、どのような問題に取り組むかというテーマを決めるために、日々関連する研究や最新技術、政府や企業の取り組みなどを調べて、話し合いを繰り返した。そして各々が自分の専攻や興味からのアプローチを提案した。専門が異なるメンバーが集まっているので、組み合わせ次第で可能性は無限大！いかにしてプロジェクトとしてまとめるかが腕の見せ所である。4月からプログラムが始まり、共に切磋琢磨できる仲間との出会い、さらに先生やスタッフの方々のサポートにとっても感謝している。このプログラムを履修することで私の研究生生活は大きく変わった。もうすぐプロジェクトプランの発表会がある。

これまで話し合ってきた成果をうまく伝えられるようがんばりたい。実りある秋を過ごせますように！ (M)



10月×日 晴れ

今日は研究室ローテーション初めの実験。PCRという手法を使って、DNAの一部を増幅させるという実験だ。情報科学を専攻とする私にとって、実験は高校以来だ。友達に借りた白衣を着てみると、いかにも着慣れていない感じがする。先生の説明が終わり、いよいよ実験開始。化学科や生物科の人たちがテキパキと進めるなか、私は初めて使うマイクロピペットと格闘していた。ごく少量の液体を計り取ることで、中身を出し切るのに力が要る。量もまちまちで不安要素だらけのサンプルを反応させている間は待ち時間。つづいて、電気泳動とよばれる手法によって生成物をサイズごとに分けるのにまた待ち時間。「時間がかかるね」「だから化学科や生物科の学生たちは遅くまで研究室にいるのかな」と、数学科の同僚とそう話した。分類された結果は解析装置に入れて写真に撮る。本来は帯状のものが見えるはずなのに、私の写真には何も現れなかった。結果は残念だったが、実験系の人の大変さが少し分かったような気がする。(Y)

Information

■ イベント情報 ※詳細はホームページをご覧ください。

キャリアセミナー「お茶大方式！リケジョの明るい未来」

日 時：2014年10月29日（水）15:00～18:00
場 所：お茶の水女子大学 本館1階カンファレンスルーム
対 象：一般、学生、関係者



J-Win W-STEM Networking Conference 2014 「一緒に語ろう！リケジョの未来」

日 時：2014年11月15日（土）
場 所：お茶の水女子大学 徽音堂ほか
対 象：大学生以上（男性もお申し込みいただけます）
プログラム履修生による報告
（時間 15:45 -16:45 「ワークショップ D2」会場）



ミニ・ワークショップ 「研究・講義と社会貢献の架け橋～アイデアをカタチへ～」

日 時：2014年11月19日（水）13:30～17:30
場 所：お茶の水女子大学 本館306
対 象：学部3,4年生、修士1年生、および大学院進学を考えている女性



■ 活動報告

2014年6月20日（金）	研究室ローテーション開始
2014年8月2日（土）	英語によるサマープログラム海外履修生向け説明会
2014年9月1日（月）	10月期学生選抜試験
2014年9月5日（月）、12日（金）	PBTS 研究発表会
2014年9月30日（火）	研究室ローテーション終了

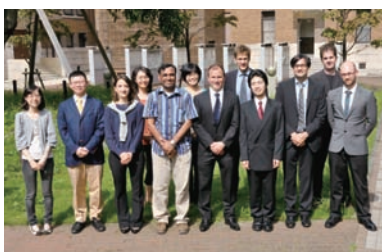
■ 活動予定

2014年10月29日（水）	キャリアセミナー
2014年11月10日（月）	JAXA（筑波宇宙センター）ツアー「向井千秋さんから話を聞く」
2014年11月15日（土）	J-Win W-STEM Networking Conference 2014
2014年11月19日（水）	ミニ・ワークショップ
2014年11月下旬	学生説明会

■ センター員を紹介します



事業部の教職員



Study Commons（教員チーム）

Study Commonsの教員に新しく8名が加わりました。
より充実した内容の国際的なカリキュラムを目指しています。

編集後記

今年のノーベル物理学賞では日本の技術が世界で表彰され、私たちに明るい希望を持たせてくれました。これまでのノーベル賞受賞者のうち、自然科学分野での女性受賞者はわずか10数名だそうです。近い将来には、私たちのプログラム履修生たちが表彰されることを！夢見ています。



ロゴマークについて

円錐状に広がる花束により、入学した学生ひとりひとりの成長を表現しています。
真ん中のピンクの花が主専攻をあらわします。
従来の大学院教育は、この主専攻を大きく育てるものでした。
本プログラムでは基盤力を担う物理・数学・情報科学の花を、主専攻の周辺を支えるように配置。
その周りを固める小さな花が、俯瞰力やコミュニケーション力など、グローバルリーダーに必要な力を表現しています。
この花束を作り上げることが、本プログラム教育システムです。

国立大学法人 お茶の水女子大学

博士課程教育リーディングプログラム
「みがかずば」の精神に基づき
イノベーションを創出し続ける
理工系グローバルリーダーの育成

Bouquet Vol.2

発行日 2014年11月1日
編集 Newsletter 編集委員会
発行 お茶の水女子大学
リーディング大学院推進センター

〒112-8610
東京都文京区大塚 2-1-1
E-mail: leading-ocha@cc.ocha.ac.jp
TEL: 03-5978-5775
<http://www.cf.ocha.ac.jp/leading/>